

ブラジル日本商工会議所

会頭 田中 信



### リオ会議所創立50周年への祝辞

創立50周年おめでとう御座います。

貴会議所の創立期にはクビチェック政権が誕生、「50年の進歩を5年で」をキャッチフレーズに、国家的なプロジェクトや工業化が強力に進められ、日本企業の第一次ブラジル進出ブームに沸いた時代がありました。

その後「ブラジル経済の奇跡」と言われた60年代後期から70年代初期に第二次進出ブームの黄金時代を経てオイルショックに遭遇し、債務危機に見舞われた80年代以降、日本企業のブラジルからの撤退が相次ぎました。

1989年ベルリンの壁崩壊により、東西2極体制による冷戦構造が解体してから、多くの地域紛争や集団テロ行為が続発し、無秩序や混乱状態が継続し、イラク戦争に見られるような、米国の一国行動主義が国際政治の不安定性を高めております。

世界経済はネオ・リベラリズムや保守主義的傾向が強まる中でグローバル化が一層進展、ブラジルは台頭著しいアジア諸国など新興諸国との激しい競争に曝されております。

本日ここに、前述した幾多の変遷の中であらゆる困難を乗り越え、輝かしい歴史的な半世紀の節目を迎えられた事は、同じ日系会議所の一員として心からお祝い申し上げる次第であります。

今やブラジルは有力新興国BRICsの一員として、国際社会にその存在感を広く認知されるようになりました。また途上国のリーダーとしてWTO農業交渉の場でその立場を堂々と主張、貧困撲滅プログラムを提案、さらに国連改革においても安全保障理事会の新常任理事国入りを目指しております。

1992年貴地で復活第一回の世界環境サミットが開催されましたが、地球温暖化防止の点でもCDM先進国として大きな役割を担い、世界の命運を左右する国として注目を浴びております。

来る2008年にはブラジル日本移民百周年を迎えます。この間、日本から約25万人の移民がブラジルに渡航、その子孫たちを含め約150万人という世界で最大の日系社会を形成するに至っております。最近20年間には逆に約28万人の日系ブラジル人が日本に出稼ぎに行っております。このように日伯間には歴史的に単なる経済面を超えた密接な関係があります。

しかしこの間、80年代はラテンアメリカ債務危機、90年代は日本経済のバブル崩壊による長期不況の影響により、日伯経済関係には「失われた20年」の停滞が続きました。1995年以降、リアルプランによるブラジル経済の正常化に欧米企業は迅速に対応しましたが、立ち遅れていた日本企業の動きにも最近漸く若干の動意が感じられるようになりました。

昨年9月は、総理として8年ぶりに小泉首相の訪伯が実現、本年5月にはルーラ大統領の訪日が行われました。この両国首脳の交換訪問が停滞気味であった日伯経済関係再活性化の導火線となることを期待しております。

歴史的な貴会議所50周年を契機として、今まで以上に相互間の連携・交流強化を図り、共に栄える団体を構築していきたいと念じてやみません。貴所のこれからの益々のご活躍とご発展を祈念しお祝辞に代えさせていただきます。